

千葉歴史の散歩道

茂原市海軍航空基地跡を歩く



教育庁教育振興部文化財課文化財主事 やまうち まさてる 山内 将輝

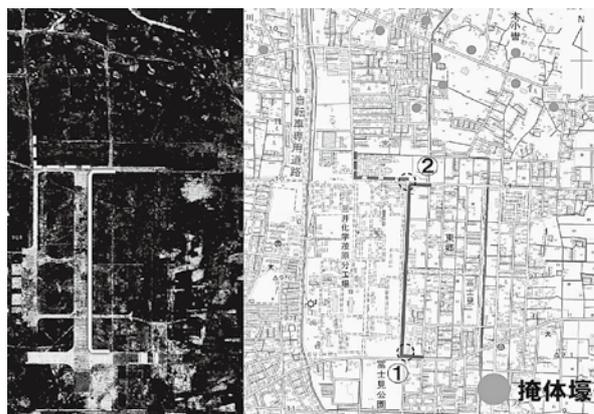
第2次世界大戦中の1941年から対米国土防衛作戦の一環で茂原市東郷地区に海軍の航空基地が建設された。基地が建設された歴史を物語る構築物として最も著名なのは掩体壕（えんたいごう）だろう。掩体壕は現在も住宅地や農地の中にのっそりと残されており、周りの景観と馴染まない無機質な外観によって、見た人に強い印象を与える。茂原市には掩体壕が10基残されており、市が管理しているものから、民家の駐車場に転用されているものまで様々な状態のものがある。構築されて間もないからこそ、人々の生活の中で多様な扱われ方をしている。

茂原市の地図を見ると、掩体壕が所在する地区の南に、不自然なほど長い直線で構成された街区がある。ここがかつて航空基地だったその場所である。航空基地にはT字型の滑走路が存在し、それが現在の直線的な街区への発展を大きく規定してきた。現在の三井化学の工場の東側にある1 km程の南北に伸びた道は、滑走路だったことでよく知られる。

航空基地の痕跡は直線の道以外にも表れる。地図上①の地点の交差点に残された妙に広い歩道がその一つである。これは滑走路のカーブ部分にあたる。滑走路と車道を接続させる時、飛行機が曲がるためのカーブの部分が、不要になり歩道として余ってしまったのだろう。地図上②の交差点も滑走路を車道に転用する際の困難が表出している。この交差点はきれいなT字路にならず、クランクとT字路

が奇妙に組み合わさっている。滑走路を車道に転用するには道幅を狭くする必要があるが、この奇妙な交差点は元の滑走路の北側（地図：破線）と南側（地図：実線）、どちらの端を車道の基準として残すかを巡る齟齬によって生まれたと推測できる。

街は白紙の状態から生成するわけではなく、先行して存在するモノに規定を受けつつ造られていく。散歩しているとき、違和感のある場所と出会ったのなら、目を凝らしてみしてほしい。そこは過去と現在の葛藤の場所かもしれない。



航空基地跡 (1947年)

(現在)



地点①



地点②

【参考文献】

- 茂原市教育委員会 1996 『茂原海軍航空隊調査報告書』
茂原市教育委員会 2007 『掩体壕が語る茂原の歴史』

千葉教育 萩 (No. 675) 令和4年9月1日発行

編集・発行 千葉県総合教育センター (代表) 神子 純一
〒261-0014 千葉市美浜区若葉2-13 TEL 043-276-1204
URL <https://www.ice.or.jp/nc/>
印刷所 千葉市療育センター いずみの家
〒261-0003 千葉市美浜区高浜4-8-3 TEL 043-216-2465